

■平頼盛(池大納言)
たいらのよりもり
・・・・・・・・1131＝

武将。清盛の異母弟。源氏一斉蜂起に、母池禅尼の恩忘れぬ頼朝の厚遇で特異な位置。

生。正四位刑部卿平忠盛の五男。母は入道修理大夫藤原宗兼の女池禅尼。

平氏に伝えられる二宝刀小鳥・拔丸を家嫡であるゆえ清盛に小鳥を、母のゆえに頼盛に拔丸を与えたことなどで、異母兄清盛との仲はよくなかった。

西行出家・・・1140＝9歳：

・・・・・・・・1149＝18歳：

保元の乱・・・1156＝25歳：昇殿を許され、安芸守に任ぜられ、右兵衛佐を兼ね、従四位下に叙せられ、中務権大輔となる。

後白河院政始1158＝27歳：常陸介・三河守を兼任する。

平治の乱・・・1159＝28歳：平治の乱のとき義朝との郁芳門での戦いには敗れ拔丸の力によってようやく逃げ帰ったが、信頼らを仁和寺で捕えた功により尾張守を兼ねる。以後累進して、

・・・・・・・・1163＝32歳：修理大夫となり、正四位下に叙せられる。

源頼政内昇殿1166＝35歳：大宰大貳を兼ねると、当時の慣例に反して自ら任地へ赴く。従三位に叙せられ、参議に任ぜられる。

清盛太政大臣1167＝36歳：正三位となり、西府から上洛した。

・・・・・・・・1176＝45歳：

源氏一斉蜂起1180＝49歳：従二位から、正二位、各地で源氏が挙兵しはじめ、*源義仲の入京を防ぐため宗盛は諸将を各地へ遣わし、頼盛にも山階へ向かうよう命じたが、これを辞す。

・・・・・・・・1182＝51歳：陸奥出羽按察使、

後鳥羽天皇・1183＝52歳：*権大納言となるが、平氏が西走し、解官した。その居が池殿にあったので池大納言と呼ばれた。宗盛は高倉天皇を奉じて西海へ赴いたが、頼盛は鳥羽の南まで至り、後白河法皇を頼ったので法皇は八条院のいる常盤殿にかくまった。頼盛の母池禅尼は平治の乱で頼朝が関ヶ原で捕えられたとき清盛に命乞いをして命を助けた人物であったため、頼朝は以前からしばしば書を送って頼盛を慰安し、また士卒に命じてその諸子を害せしめなかった。清盛との不仲も原因となり、平氏一族とは行動をともにしなかったのである。

・・・・・・・・1184＝53歳：*平家の没官領注文が頼朝のもとに送られてきた。そのなかに頼盛とその室の所領も含まれていたが、頼朝は池禅尼の恩に報いるためそれを安堵している。頼朝に招かれ鎌倉へ向かった。頼朝は頼盛と同息男を本官に還任するよう御書を遣わしている。頼盛は帰洛したが鎌倉逗留中は手厚いもてなしを受け、畿別には金作の刀1腰、砂金1囊、馬十疋を与えられた。また同日、除目が行われ権大納言に還任するが、辞職し、

平氏滅亡・・・1185＝54歳：*平氏が滅亡した年、病のため東大寺で出家を遂げ、

九条兼実摂政1186＝55歳：没した。